

無関心だったのが、何故かこの1年、心の依りどころを探していました。このお話しを頂き、不思議とこのご縁が七くなった祖父さん、祖母さん、父親からの久しぶりの贈り物の様な気がしたのも決め手の1つでした。

帰敬式は京都、西本願寺・御影堂で午前と午後の1日2回、ほぼ一年中行われています。私は午前の部を希望し、本願寺に隣接する聞法会館に前泊しました。当日は、朝6時からの<sup>じんじょう</sup>晨朝(※2)にも参加したかったので、帰敬式の受付は前日にすませました。そして翌朝、開門の5時半には阿弥陀堂門の前に・・・朝焼けの静かな京都の街は気持ち良く、自転車で駆け付けるお坊さん達もいらっしかったです。毎朝、御苦労さまです。

晨朝が始まるまで阿弥陀堂の廊下でぼ～っとしていると、吹き抜ける風が心地良くなるのんびりしました。たくさんのお坊さん方、ご門徒さん、完全な観光客と中途半端な私も含め「<sup>さんぶつけ</sup>護佛偈」を唱和・・・イヤそれはもはや、大合唱です。



その後、御影堂に移動して「正信偈」に法話・御文章拝読で朝のお勤めは終了し解散。その中で「本日、帰敬式ご参加の方はこちらに～」と呼ばれる。

他の受式者にまぎれ目立たぬ様にと、のんびり様子を見ていました。でも誰も返事をしないので呼ぶ声は段々大きくなり、慌てて「はい！参加します。私です。」と手を上げ駆け寄った私。逆に目立ってしまいました。

そして目の前のお坊さんが「今回はお一人です～」って・・・えっ!?目が点でした。

『私、そんなものに出る自信ないです。緊張し過ぎてダメです。』

『大丈夫。何てないですよ。まぎれて座って居たらいいんです。』

善称寺住職との会話が頭の中をぐるぐる回る。まぎれるところないじゃない～。

とは言っても、その場は進みます。首から掛ける式章と念珠を手渡され、丁寧な説明と練習2回・・・。難しい事はない。簡単な事なのに緊張で手順はほとんど覚えられません。後ろには、何が始まるんだ?と見ている観光客。緊張の度合いが更に高まったところで、「それでは始めます!」・・・もうダメだ～。と思いましたが、始まってみれば両サイドに控えるお坊さん方が全て一緒にしてくれて、私はそれを真似るだけ。目で合図してくれたり、耳元で「手を合せて下さい!」と教えてくれたりと、救われました。

そしてここは親鸞聖人の木像が安置されている御影堂。国宝建造物であり、数々の歴史と、1,000人以上入れるというスケールの大きさに圧倒されます。そんな場所で、何人もの方がこんな私の為に動いてくれて、有り難いお言葉をくださって、緊張でかちかちな私をお坊さん方や観光客が見守ってくれました。かなり気楽な気持ちで行ったのに、帰敬式が終わる頃には、この時間、この場所、この経験と、全てに感謝する気持ちで溢れていました。

その後、<sup>りゅうこでん</sup>龍虎殿にて頂いた物の説明があり帰敬式は終了です。宿に戻り部屋でゆっくりしても、9時までの朝食には十分間に合いました。

受式者が私1人で慌てましたが、法名拝受・帰敬文拝読が出来たのも貴重